

令和4年度(2022年度)第7回川口中学校区地域づくり推進会議 議事概要

日時	令和5年(2023年)2月18日(土) 9:30~12:00
場所	川口中学校1階 被服室
出席者	<p>参加者：荒井、荒木、稲原、久保、白鳥(信)、高野、田倉、外山、内藤(佳)、内藤(妙)、中尾、中村、平井、古田、前川</p> <p>高齢者あんしん相談センター川口：小林、太田</p> <p>高齢者あんしん相談センター恩方：長内</p> <p>第1層生活支援コーディネーター：今泉</p> <p>はちまるサポート川口：田中</p> <p>川口中学校校長：鷲尾</p> <p>川口小学校校長：石川</p> <p>学校教育部地域教育推進課：高橋</p> <p>契約資産部資産管理課：高田</p> <p>八王子地域 PAL-ETTE：佐藤、榎本</p> <p>未来デザイン室：野田、安齋、牧瀬</p> <p>(株)RPI：岩崎、笠原、伊藤、高尾</p>
見学者	八王子未来 CAN-VAS：石井
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和4年度(2022年度)第7回川口中学校区地域づくり推進会議資料 ・ 資料1 第6回川口中学校区地域づくり推進会議の検討まとめ ・ 資料2 川口中学校区地域づくり推進計画(改定版)(案) ・ 資料3 事前ワークに基づく推進計画(改定版)反映一覧 ・ 資料4 令和5年度(2023年度)以降の地域づくり推進体制(案) ・ 資料5 八王子市川口地区地域づくり推進会議 会則(素案)

1 開会

未来デザイン室から挨拶。

2 本日の議題確認

会議資料をもとに、本日の検討事項を確認した。

3 議題

(1) 第6回推進会議の検討結果の振り返り

会議資料の3ページをもとに、第6回推進会議で議論した内容と、令和5年(2023年)1月28日に開催した「地域づくりフォーラム」に関する意見交換を行った。参加者からの主な意見は以下のとおり。

【主な参加者意見】

- ・ 地域づくりフォーラムに参加して、「核になる人」の話が地域活動を行っていくうえでの参考になった。
- ・ 基調講演者の「まちづくりが楽しいか」という質問が良かった。地域活動を楽しまないといけないが、一定程度の負担はある。トータルで見ればまちを良くしようという目的を持つことが重要と感じた。

- ・ これまで地域活動に関わっていた方が、地域づくりに関心を持つきっかけになっていたのではないかと感じている。(未来デザイン室)

(2) 運営担当打ち合わせの報告

会議資料の3ページをもとに、第6回推進会議や事前ワークを踏まえ、今後の推進体制等についての打ちあわせを2月2日(木)に行った結果を共有した。

(3) 今後の公共施設部会の考え方について

会議資料の4ページ及び資料2のP16をもとに、令和5年度(2023年度)以降の公共施設部会の考え方について担当所管である地域教育推進課と資産管理課より説明を行った。説明概要の説明と参加者との主な意見交換内容は以下のとおり。

【説明概要】

- ・ 令和4年(2022年)5月の第1回推進会議において、「川口中学校区における学校再編の基本的な考え方」を提示した。川口中学校区は、川口中を中心に川口小、上川口小、美山小、松枝小をグループとして考えていく。松枝小は榎原中への入学が約4割であることから、榎原中グループとしての検討も並行して進めることが必要であると認識している。
- ・ 学校再編に関する検討は、令和6年度(2024年度)から公共施設部会等に市の考えを示しながら進めていきたい。部会の論点は、「どのような学校にしていくのか」というコンセプトに関すること、市の計画を踏まえた「コミュニティスペースの活用方法」の2点を主なテーマとする。
- ・ なお、令和5年度(2023年度)についても、必要に応じて意見交換を行うことも想定している。

【主な意見交換内容】

- ・ 現状では松枝小学校に通う約4割の生徒が榎原中学校に通学しており、9年間を一貫して子どもたちが同じ中学校区で学び、地域と関わることができない場合がある。こうした問題への対応を行った上で、制度設計を行うべきではないか。
各学校長とも協議が必要であり、中学校区による分断(ねじれ)が生じていることの課題に今後どのように対応していくのか、教育委員会としても検討していきたい。(地域教育推進課)
進学先が複数の中学校になることは他の小学校でも起きている。1つの中学校が市内すべての小学校と連携していくことは難しい。(川口中学校校長)
小学校側も児童に対して、進学する中学校区ごとに分けて様々な指導を行うことは難しい。(地域教育推進課)
川口中学校では、中学校区内の各小学校で、中学校の授業や生活を知ってもらうための出前授業なども実施している。他の中学校に進学したとしても、不都合がでないよう今後もできる限り対応していきたい。(川口中学校校長)
小中一貫教育は、通学している小学校と進学先の中学校の間で児童の情報を引き継ぐことだけではないと考える。(参加者)
今のままでは、少なくとも1~2年は分断(ねじれ)が整理されないままとなるため、校長も苦労していることは理解できるが、狭間の地域に居住する者の意見として御理解いただきたい。(参加者)
- ・ 小中一貫校と義務教育学校にそれぞれメリット、デメリットがある。本来は同じ教育環境にする必要があるのではないか。(参加者)
校舎が分離しているか、一体であるかの違いで、どちらが優れているということはない。(地域教育推進課)

そうは言いつつも、同じ敷地にあるかないかで、9年間の過ごし方に違いはあるのではないか。それにより、今後、義務教育学校を選択する傾向が強まるのではないか。(参加者)

小中の先生が一緒にいることで、小学校のうちから中学校の先生にも子どもたちの様子を共有してくれることに、親としては非常にメリットを感じる。(参加者)

- ・ 川口中学校区は地域が広く、徒歩で通学できない生徒もいる。学校統廃合が地域の子どもにとって本当に必要なかを改めて検討いただきたい。統廃合が子ども的人数だけで判断されていることは非常に残念である。上川口小学校では、新規入学者を募集していないなどの間違った情報が流れているという話を聞いたことがある。

- ・ 面積あたりの公共サービスを調査し、サービスの少ない地域の税金等を引き下げるといった取組をすれば、若い世代が郊外にも定住してくれるのではないか。

上川口小学校の募集については、新規入学者を募集していないという実態はない。(地域教育推進課)

入学希望者がゼロなど、マイナスの印象を与えるような情報発信は控えていただきたい。(参加者)

そのような情報発信はしていない。また、小規模校にもその良さがあることは認識している。小規模校だからという理由だけで統廃合をすることはない。(地域教育推進課)

- ・ 正式な部会発足は令和6年度(2024年度)からとなるが、令和5年度(2023年度)についても、地域からの要請があれば、推進会議に適宜参加したいと考えている。(地域教育推進課)

(4) 推進計画(改定版)(案)の確認

会議資料の4ページ、資料2及び資料3をもとに、事前ワークの意見を踏まえながら運営担当と検討した推進計画(改定版)(案)について事務局より説明。参加者からの主な意見は以下のとおり。

【主な参加者意見】

(地域概要について (No10))

- ・ 榎原中学校区に関する記載については、今後連携していく可能性があるため、記載しておくべきではないか。(参加者)

榎原中学校区の記載については、地域概要以外にも記載した方が良いとの意見をいただいた。事務局としても、皆様の意見は十分承知しているが、現在、榎原中学校区には推進会議が設置されておらず、推進会議での確認がとれないため、今回は、榎原中学校区との連携の必要性は感じている等の記載に留め、明確に連携していくことを記載するのは、榎原中学校区の推進会議設置後、双方の確認をもって記載していきたいと考えている。(未来デザイン室)

(地域の将来ビジョンについて (No17))

- ・ 提案が出ている将来ビジョンの変更については、反映することで良いか。(未来デザイン室)
意義なし。(参加者)

反映するに当たって、変更する点はあるか。(未来デザイン室)

「あらゆる世代」という文言は、3つのキーワードとの重複感がある。(参加者)

「地域資源」と言われてもイメージしづらい。「土地利用」「空き家」「人材」といった具体的なワードを補足して追記した方が良いのではないか。(参加者)

将来ビジョンは変更することとし、地域資源の記載部分には、具体的な言葉を()内に追記する。(未来デザイン室)

(アクションプラン一覧について (No24、25))

・P13にある「共通テーマや検討の視点」について、その具体的な内容を記載した方が良いのではないか。(参加者)

P12で説明した後で、P13につながる流れになっているが、改めて補足的に記載した方が良いか。(未来デザイン室)

すべてを書くことが難しいのは分かるが、記載されているページに戻らないと意味が分からないことは避けた方が良い。せめて、「共通テーマや検討の視点」の項目を補足的に記載する形ではどうか。(参加者)

そのように対応する。(未来デザイン室)

(アクションプラン一覧について (No27))

・P13までに部会の話が出てこない中で「公共施設部会での意見交換」と書かれても部会とは何かが分からない。部会との関係性や参照先を示しておく必要があるのではないか。(参加者)

詳細はどのページ記載しているかを補足する形で対応する。(未来デザイン室)

(災害に強いまちづくりについて (No33))

・ハザードマップは市の防災マップの補完するものとして考えている。川口地区には、消防車が入れないような狭隘道路が多数ある。地域全体に周知するためにも、市の地域防災マップを参考に、地域の実態に合ったマップを作成したい。(参加者)

地域内でも場所によって特性は異なる。その地域のマップを作れると良いのではないか。(参加者)

新しい移住者に渡すことで、町会の活動の広報にもなるのではないかと。(参加者)

避難所対応や高齢者等への支援が重要。マップを作るだけでなく、ケアをすべき方への対応も含めた取組が必要ではないかと。(参加者)

榑原町会では、ハザードマップを参考に防災に関する内容をまとめた簡易版の冊子を作成し、全戸配布した。住民として取り組んだ成果にもなるので、関わりやすさの視点からハザードマップづくりを提案した。(参加者)

要援護者は様々な方がいる。市の福祉部の中で検討を進めているが、社会福祉法人や施設との連携がまだできていない。(参加者)

アクションプランでは、ハザードマップの作成だけでなく、福祉施設などの把握に関して、情報収集等に取り組むことも記載されている。(RPI)

高齢者あんしん相談センター川口圏域では、要援護者のうち、要介護状態の独居の方などと地域の方との事前同意に基づき、災害時に避難支援などを受けることについて、ケアプランに盛り込む取組を進めている。(高齢者あんしん相談センター川口)

すべての町会のマップを推進会議で作成することは難しい。どこまで作り込むかは各町会に任せて、マップの枠組みづくり、必要な情報の提供などに取り組むとよいのではないかと。(参加者)

これまでの意見を踏まえ、ハザードマップの作成は残す形で良いか。(RPI)

意義なし。(参加者)

(5) 令和5年度(2023年度)における地域と市との役割分担

進行資料の5ページをもとに、令和5年度(2023年度)から推進会議を地域が主体的に運営していくに当たっての地域と行政の役割分担について事務局より説明。参加者からの主な意見は以下のとおり。

【主な参加者意見】

・推進会議の活動として、川口中学校の教室を活用することは可能か。

シルバー人材センターに依頼し、施錠などを行う開放員が配置されれば、会場として利用することは可能。(川口中学校校長)

・普段は、推進会議のためだけに学校を開けていただいているのか。(参加者)

日程によって、地域の団体が校庭などを使用している場合などもある。本日はこの推進会議のためだけに学校を開いている。(川口中学校校長)

・部会の打ち合わせの場所として、学校の使用は可能ということか。市民センターなどの会議室も有料になるため、集まる場所の確保が難しい実態がある。(参加者)

部会の打ち合わせなど推進会議に関する活動拠点の在り方について、事務局でも検討している。今後、学校施設の活用も含めて調整し、改めて情報提供をさせていただく。(未来デザイン室)

(6) これからの活動に向けた準備・相談

ア 地域づくり推進体制の確認

進行資料の6ページ及び資料4をもとに、令和5年度(2023年度)以降の地域づくり推進体制を共有した。参加者からの意見はなし。

イ 令和5年度(2023年度)に向けた意見交換(会則検討含む)

進行資料の6ページをもとに、運営担当と確認を行った対応方針(案)の確認とともに、参加団体、連絡方法などについて意見交換を行った。参加者からの主な意見は以下のとおり。

【主な参加者意見】

・住民協議会では、令和5年度(2023年度)の組織について検討を始めている。そのなかで、新たに住民協議会に関係の深い団体の代表などに参加を募っても、複数の役を掛け持ちしている等の理由から、住民協に入るのは難しいという意見が来ている。推進会議への参加を呼びかける場合も、同様のことが想定されるのではないかと。(参加者)

・PTAでは、役員がそろわず、PTA自体の活動も難しくなっている。PTAという組織で参加を決めしまうと、PTAがない学校が参加できなくなるという懸念もある。(参加者)

推進会議の現参加団体からの参加を引き続き呼びかけていくとともに、今後、適宜他の団体からも参加者を追加する形で良いかと。(未来デザイン室)

異議なし。(参加者)

この活動が魅力的な取組であるということが地域全体に伝わることで、新しい参加者は増えてくる。その魅力をどのように伝えていくことが課題である。(参加者)

ウ 部会活動を行っていくための検討

進行資料の7ページをもとに、部会ごとの検討を行った。各部会の発表概要は以下のとおり。

【地域防災部会】

いつ:3月14日19~20時/どこで:はちまるサポート会議室(川口事務所2階)

連絡方法:LINE/募集方法: 初回の部会で決定

【マルシェ部会】

いつ:4月初旬/どこで: LINEで調整

連絡方法:LINE/募集方法: 今後検討(サポーターの募集は随時)

【コミカレ部会】

いつ:4月の全体会后/どこで:はちまるサポート会議室(川口事務所2階)

連絡方法:LINE、メール

募集方法:各地域のイベントで看板を出しPR(他の中学校区の同じような活動と連携したい)

(7) 活動・情報の共有

ア 会則素案の確認

会議資料の7ページ及び運営担当が作成した資料5をもとに、会則の制定に向けて検討が必要な事項を共有した。参加者からの意見はなし。

イ その他の情報共有

進行資料の7ページをもとに、情報共有を行った。主な共有内容は以下のとおり。

【主な共有内容】

- ・令和5年(2023年)2月12日に高校生によるまちづくり提案発表会があり、市内の5つの高校が発表した。そのうちの八王子北高校では、「八王子の子育てについて」「若者の流出を防ぐ」をテーマに校内で選ばれた生徒が発表した。推進会議でも、こうした取組と連携していけると良いのではないかと。(参加者)
- ・川口には、「みんなの会」という団体があり、そこでは、多世代の居場所づくりの活動が行われている。先日は小学生と中学生の勉強を地域の高校生以上の学生が見る取組を2日間行った。その際のボランティアの募集に、定員以上の学生の応募があった。高校生に地域活動へ参加してほしい場合は、手法として八王子北高校に相談することも良いのではないかと。(参加者)
- ・地域共生のまちづくりフォーラムを開催する。まちまるサポート川口は、そのサテライト会場となるため、ぜひ参加いただきたい。(はちまるサポート川口)

4 閉会

以上